

2011年度

科目名	古文書学実習Ⅱ				
担当教員	山中 浩之				
配当	文財2		コード	51016	
開期	後期	講時	金曜日1限	単位数	1
授業テーマ	古文書の読解と整理				
目的と概要	歴史は1回しか起こらない。ほとんどは人々の記憶の中か、忘却のかなたへと消えていく。残される史料はごくわずかである。だから史料はいかなるものも貴重である。しかし史料はそのままでは紙片でしかない。それを1片1片読み解き、それらが相互につながりを持ち出したとき、紙片は意味ある史料として立ち現れてくる。そうして人々がそのとき、その場でどう生きようとしていたかが見えてくるとき、歴史が古文書を通して浮上してきたといえるだろう。 そのため古文書の読解と、古文書を扱い整理する技法の修得をめざす。				
成績評価法	平常点(50%)、授業時のレポート(50%)を加えて総合的に評価				
テキスト	古文書コピーを配布。くずし字解説辞典/ 東京堂				
参考書	『概説古文書学 近世篇』/ 吉川弘文館 『史料の整理と管理』 / 岩波書店 『古文書調査ハンドブック』/ 吉川弘文館				
履修に当たっ ての注意・助言 /準備学習	・本科目の履修は古文書学A/Bおよび古文書学実習Ⅰを履修しているものを原則とする。 ・古文書を読むためには当時(江戸時代)の文章表現とその読み方になれておく必要がある。活字化された既刊の史料集をできるだけ読んで、声に出して読めるようにしておくこと。				
講義計画					
Ⅰ．古文書の読解と整理実習—古文書を通して社会を読む— 1 検地帳をととして土地と階層をみる 2 宗門人別帳を通して家族構造を見る 3 免状と皆済目録をととして年貢の変化を見る 4 村明細帳をととして村の全体を知る 5 村の騒動や一揆の記録を通して社会の問題点と対立をみる。					
Ⅱ．古文書整理の実習 (博物館に所蔵する下記の古文書あるいはマイクロフィルム写真についてカードあるいは目録用紙に整理し、パソコン入力を行う) 1 観心寺文書 2 錦織田中家文書 3 富田林仲村家文書 4 八尾田中家文書 5 高貴寺文書 6 羽曳野松村家文書 7 岩崎家文書 8 北大友村三島家文書 9 延命寺文書 10 中野家文書					
☆なお冬休み中、古文書調査・整理をおこなう。大学博物館内あるいは周辺地域の旧庄屋家を予定					